

明後日新聞社

岐阜

www.asatte.jp

発行元：明後日新聞社 岐阜支局

〒500-8368 岐阜県岐阜市 宇佐 4-1-22 岐阜県美術館

社主：日比野克彦

「明後日新聞・岐阜支局版」創刊にあたって

「明後日(あさって)新聞」?それってナンヤローネと思われた方が多いかもしれませんが、創刊にあたり、まずはみなさんの疑問を解き明かしましょう。「明後日新聞」は、毎日届きませんか。明日も届きませんか。「あさって新聞はいつ届くんですか?」の問いには「明後日あたり」と明後日の方向を見て答えることを社訓としています。明後日新聞は、明日のそのつぎを思い描きます。社主は日比野克彦(岐阜県美術館館長)さんです。

「明後日新聞」は2003年、取材という形で地域の人たちとの交流を図る活動の媒体として、新潟県十日町市葦平(あざみひら)の廃校を本社として発足しました。その後、全国で支局が設立されました。

そして、二二岐阜に岐阜支局を設立し「明後日新聞・岐阜支局版」を創刊することになりました。明後日新聞・岐阜支局版は、岐阜県美術館の活動「アートコミュニティー・さながラー」の活動「地域のアーティスト」主にこれら三つを取材し新聞というフォーマットで地域の人たちとの価値を共有し交流することを目指します。

その記念的創刊号では県内で展開されている「明後日朝顔プロジェクト」を特集します。

「明後日朝顔プロジェクト」ってナンヤローネ

特集する「明後日(あさって)朝顔」って十二?明日の朝ではなくて明後日に咲く朝顔のこと?と思われた方、残念ながらいざしです。明後日朝顔はちげんと明日の朝に咲きます。このプロジェクトもまた日比野克彦さんが2003年、葦平で始めたプロジェクトです。「明後日新聞社文化事業部」が中心となり地域の人たちと朝顔を育てた経験もあり「明後日朝顔」と名付けられました。「明後日朝顔プロジェクト」は、花を咲かせることを目的としています。その種に価値を見出し、葦平の人たちが育んだ種には、彼らの記憶と想いが詰まっています。その想いの詰まった種が水戸へ、さらには福岡、大宰府、岐阜へ、年々、さまざまな地域に運ばれ、その地で育つことで、地域のコミュニティを育み、さらに収穫された種は、各地に運ばれ人や地域と地域をつなぐものになりました。そんな「明後日朝顔」は岐阜県内のいくつかの地域、コミュニティでも育てられています。

それらを取柄し「明後日朝顔」を生育すること生まれる不思議な気持ちを共有したく特集します。

「アートコミュニティー・さながラー」ってナンヤローネ

さて、「明後日新聞・岐阜支局版」は、アートコミュニティー・さながラー、明後日新聞が制作・発行します。「アートコミュニティー・さながラー」は、アートから生まれるコミュニティを大切に、岐阜に生きる人やチームと結びつきながら、岐阜県美術館を拠点に人、人、作品、人と文化をつなぎ、新たな価値や関係を社会にひろげる活動をしています。さながラーは想いを共有するチームをつくり活動します。そのチームを舟と呼び、私たちは「明後日新聞版」という舟に乗って漕ぎ出しました。メンバーの誰も新聞制作の経験はありませんが、「明後日新聞」に触れたい人、人と作品、人と文化をつなぎ、新たな価値や関係を社会にひろげられるよう努めます。よろしくお願いたします。(編集長 加納)

明後日朝顔全国会議 2023 in 岐阜

全国会議初日 キングオブタネ発表

岐阜全国会議初日、各地域からキングオブタネの発表プレゼンがありました。各地域とも熱の入った発表でした。前日、台風で全国の交通機関が絶望的な状況の中、各地から多くの参加者が駆けつけました。2日間かけて岐阜に辿り着いた熊本チームが、観光協会も驚くような、熊本の名所とグルメ案内で投票結果も見事1位に輝きました。

お祝いに、市橋保育園から地元地田町の名酒のプレゼントがあり、日比野館長から熊本チームに手渡されました。来年の全国会議は熊本県で開催の予定です。(記者 鳥野)



寄稿 市橋保育園での取り組み(地田町)

2006(平成18)年、岐阜県美術館で日比野克彦さんの個展が開催され、関連イベントとして行われた「明後日朝顔たねまき式」にお誘いいただいたのが、市橋保育園年長組とぼろ組がプロジェクトに参加するきっかけでした。

そして現在に至るわけですが、当初は県内各所に展開していた拠点も、徐々に少なくなってしまう時期があった。市橋保育園としては「明後日朝顔岐阜」の灯を守っていく、そんな一歩で続けてきました。

当然、全国会議も、一保育園の年間行事のような取り組みから地域へ展開していかないと、とても手を挙げられないと思っていました。岐阜県美術館にアートコミュニティー「さながラー」が誕生、岐阜県美術館と市橋保育園の共同開催による全国会議2023が実現したことは、心の底からうれしく、尚且、多くの参加者に園までお越しいただいたことは、夢のような出来事でした。

それまで、市橋保育園職員間では、「明後日朝顔岐阜」というワードは耳に馴染みませんが、「園長先生の趣味?」と思っていた筈なんです。おもてなし企画にみんな協力してくれました。「こんなプロジェクトがあったんですね!」と今さらながら趣旨共有のきっかけになったようです。あったため、全国会議2023ご出席のみなさま、ご参加ありがとうございました。

日比野克彦館長・社主からのメッセージ

明後日新聞社文化事業部が発行している新聞ですので、この新聞は文化事業として生まれた作品ということになります。

2003年に大地の芸術祭の中でスタートした明後日新聞社文化事業部は、明後日朝顔の活動を中心として全国で展開しています。新聞発行としては新潟県十日町市の葦平(あざみひら)という集落で今年で20年目になり継続しています。

地方ではこれまでに、水戸、金沢、熊本、十代田、さいたま、などで発行してきました。

今回岐阜では初めての創刊となり、岐阜らしい展開にこのあとも無理なく続いていくといいなあと思っています。

きっとゆる〜く繋がっていくような気がする。



全国会議2日目 市橋保育園参加者のみなさん

園の日々の生活や地域の日常のなかにアートがある。ひとりひとりがう形の記憶として残っていく、そんな明後日朝顔岐阜プロジェクトの広がりをめざしていきたいです。

市橋保育園 園長 鷹橋賢淳

